

第3回キャリア教育研究部研修会(庄内学園) 報告書

1 授業実践

<単元名・授業者名>

5年生 体育科 「つないで つないで つないで! (ソフトバレーボール)」	和久田 祐己 教諭
8年生 体育科 「バレーボール」	神 宏太 教諭

<本単元で育成を目指す基礎的・汎用的能力>

5年生	・『考える力(課題対応能力)』…対話的な活動を通して自分の成長に気付き、やり方を工夫しながら課題を解決しようとする事ができる。 ・『見通す力(キャリアプランニング能力)』…学びと社会とのつながりを知り、自分の将来を思いえがくことで、目標や夢を達成できるように、今やるべきことを考え取組むことができる。
8年生	・『つながる力(人間関係形成・社会形成能力)』…リーダーとフォロワーの立場を理解して、自分から協力・協働することで社会性を身に付ける。 ・『考える力(課題対応能力)』…課題を解決する活動で、学んだことを別の学習や新しい場面に活かし続けようとする事ができる。

<単元構想>

本単元では、5・8年生どちらにおいても、基本的な技術を身に付けるとともに、ボールをつなぐ楽しさを味わわせることに重点を置いた。それぞれ導入でバレーボールの基本的な技術を身に付け、展開で自分たちのチームの特徴に合った作戦を選んだり考えたりしてゲームを行う学習計画を立てた。そのうちの2回の授業の中で、5年生と8年生の交流を行うことにした。交流1では、5年生と8年生のチームでペアを組み、基本的な技能の練習を一緒に行った。5年生は8年生から教えてもらうことで、技能の定着を図り、8年生は5年生に教えることで知識の定着を図った。交流2では、5年生と8年生が互いのゲームを見合うことができるようにして、8年生は5年生に作戦のアドバイスを、5年生は8年生の技能や作戦のよいところを8年生に伝えた。

キャリア教育に関して、本単元を通して5年生は、チームの仲間や8年生との対話を通して、自己やチームの特徴に気付き、よりよいボールのつなぎ方を考えられるようにする『考える力』を、また、8年生の生徒とともに練習したり、互いに試合を見合ったりすることを通して、自分の未来の姿を思いえがき、今やるべきことを考えて取り組むことができる『見通す力』を育むことができると考えた。8年生は、自分や下級生、同じグループの課題の合理的な解決に向けて、運動の取り組み方を工夫する『考える力』を、そして5年生と交流する中で、相手の年齢や発達段階に応じたアドバイスをすることで『つながる力』を育むことができると考えた。

<本時の学習>

授業研修では、交流2の時間を公開した。授業の最初に、準備運動やめあての確認を行った。その中で、5年生は『考える力』と『見通す力』をはたらかせること、8年生のよいプレーを見付けることを確認した。8年生は『考える力』と『つながる力』をはたらかせること、5年生へ分かりやすいアドバイスをすることを確認した。

活動に入って、最初に5年生がペアチームの8年生に自分達のチームが選んだ作戦について説明をした。そして、5年生同士のゲームを行い、それを8年生が見てアドバイスをした。「声を出し合うといいよ」「3球目のボールは前の方に飛ばすように」などと、5年生の実態に合わせてアドバイスをしていた。次に、8年生同士のゲームを行い、それを5年生が見ていいところを伝えた。8年生が名前を呼んで声を掛け合ってプレーする姿や、粘り強くつなげようとする様子に刺激を受けたようであった。その後、5年生は作戦の練り合いを、8年生はゲームを行った。

最後に振り返りをした。5年生の児童からは、「8年生のよいところを見付けられた」「声を掛け合うことの大切さに気付いた」との発言があった。教師は、「学びを未来につなぐ一言」として、みんなで相談して課題解決をしていくことの大切さについて話をした。8年生の生徒は、ワークシートに振り返りを書き込んだ。教師は、今日の学習が、自分達の考えを下級生にどう伝えるかを考えるきっかけになり、来年最高学年になった時に生かされるという話で締めくくった。

2 事後研修会

参観者は11の小グループに分かれてグループ協議を行い、各グループで出た意見を発表した。

○同じ視点で話し合うことで、8年生のアドバイスが5年生の実態に合っていた。8年生からのアドバイスを自分たちの作戦に生かそうと話し合っているチームが多かった。5年生の振り返りに、8年生との交流の成果が多く書かれていた。

○ペアのチームがいることで、8年生が親身になってアドバイスをすることができた。相手の立場になって、どう伝えたらいいのかを考えていた。

○ミーティングボードを使うことで、作戦の説明が分かりやすくてできていた。

△話合いの後、ゲームをする時間がなかった。8年生のアドバイスを試す時間が欲しかった。

△フォーメーションだけが作戦例として示されていたが、パスの仕方や声の掛け方なども作戦のうちではないか。それらも作戦の例として示したほうがよかった。

△5年生の児童に課題意識が少なかった。自分たちの作戦を立て、何度か実施して「自分たちの作戦のここがうまくいかない」という課題が出てから、8年生との交流を行ったほうが、より意味のある交流になったのではないか。

3 指導講評

笠井中学校の平出雅彦校長先生より指導講評をいただいた。キャリア教育を進めていく上で課題となることを2つ挙げ、見解をお話してくださった。

1つ目の課題は、教科の目標とキャリア教育の目標があるということである。それについては、あくまで、教科の目標が最優先であり、教科の目標を達成するためにキャリア教育の視点を意識した授業を構築する。そして、教科の目標を達成したときにキャリア教育で付けたい力も付いていたという考え方をすることが大切である。

2つ目の課題は、キャリア教育で付けたい力がはっきりしないということである。それについては、1単位時間で付けた力を付けるのではなく、単元全体を通して4つの力をバランスよく育むという考え方を。その時間の見取りは具体的な姿で行い、指導者はその姿が見られるように意図的に学習活動を展開することが大切である。付けたい力が付いたかどうかについての見取りは難しいが、キャリア教育で付けたい4つの力を言語化し、共通理解した姿や言葉を洗い出しておくことで評価がしやすい。

最後に、4つの力を言語化し、共通理解した姿や言葉をまとめた表を提示していただいた。

